



アンケート結果より

先日お忙しい中、アンケートをお願いしました。遅くなりましたが、結果をご報告し、園の方針などお伝え致します。

ほとんどの保護者の方は、「満足している」「ほぼ満足している」といった項目を選択してくださり、今年も花まるを付けてくださっている方もおられ、大変うれしく思います。自由記載欄では、多くの方が、コロナ禍でも可能な限りの保育に取り組み、保育園もお友だちも先生も大好き。担任以外でも声をかけてもらって安心できる雰囲気伝わってくる。給食もおいしく、楽しみにしている。などを評価してくださっていました。

反面、厳しいお言葉もありました。

園での様子がわからない。アトリエの配信はあるが、クラスでどんなことをしているかわからない。

きっすノートでの配信がなかなかできず、おたより帳でもお知らせできていないこともあり、申し訳なく思います。次年度に向けて、園での様子を直接ご覧いただいたり、保護者のみなさんと気軽におしゃべりができる機会が持てればと思っております。

子育てで悩んでいた時、プロとしての正論を言われると圧をかけられたようで、きつく感じた

おっしゃる通りです。どうしたらよいかみなさん分かっておられると思います。正論であっても心に寄り添う言葉でなくては伝わりません。子どもも保護者も一人ひとり違うのです。心を馳せた関わりを大切にしていきます。

保育者が集まって談笑している。子どものことをちゃんと見ているの

伝達、報告などだとは思いますが、今しなくてはならない事なのかという判断ができていなかったのかと思います。不信任を抱くような行動で申し訳なく思います。



卒園児の姿に思いを馳せて

最近、新型コロナウイルスに感染したという園児はすっかり少なくなりましたが、ご家族、職場などで感染が見られたという報告がまだ少し聞かれます。5月には、5類になることが報道され、卒園式もこどもみらい局より、マスクなしでの開催の通知がありました。インフルエンザと同様の扱いにはなりますが、今まで身につけた手洗いうがいの感染対策はさまざまところで役立つものです。引き続き子どもたちに手洗いうがいなどの必要性などわかりやすく伝えていきたいと思えます。

さて、1月28日に年中さん、年長さんの生活発表会を安佐北区民文化センターで開催いたしました。その週は、雪が多く、当日も道路が凍結する心配がありましたが、保護者の皆さんは集合時間に遅れないよう、事前に近くの駐車場を予約されたり、チェーンを用意したりなど工夫してくださっていました。そのおかげで大きなトラブルもなく無事に発表会を開催することができました。その発表会では、年中さんも年長さんも一人ひとりが自分の役割を理解し、楽しんで表現してくれ、どの子もステージを降りる際、満足そうな笑顔を見せ、「楽しかった」と言う子どももいました。特に年長さんの姿は、とても素晴らしいものでした。緊張しながらも自分の役を楽しみ、周りの友だちを助けたり、合奏ではリズムを合わそうとしたり、何より曲と曲の間とか、あいさつなどの時にごそごそと動くことなくしっかり話を聞いていました。理事長も冒頭のあいさつで、「すいこうの子どもたちは集中力がある」と褒めてくださいました。年長さんは、集中力もありますが今、何をしなくてはならないのかという状況判断もしっかりできています。それは年長児になったから自然に身に付いたものではありません。年長さんの堂々とした姿を見ながら、3年前の入園式のことを思い出しました。式の最中に隣の子と大きな声でおしゃべりする子、会場を走り回る子などがおりとても賑やかな入園式でした。まだ年少さんだからと思いつつも不安な表情をしている私に理事長は「今から、今から」と言ってくれました。本当に子どもたちは、そこから見違えるような姿を少しずつ

見せてくれました。この学年の子どもたちは、1歳児さんのころから虫が大好きで、ありを見つけては、園庭に腹ばいになって動く様子を見たり、年長組さんが飼育しているカブトムシを見せてもらったりしていました。空き箱や新聞紙を使ったあそびなども大好きでした。小さいころから興味のあることを満足するまで楽しんできた子どもたちは、「もっと楽しくなるためにはどうしたらいいんだろう」と考えたり、「もっと知りたい」と思って図鑑で調べたりなどあそびを通して、工夫したり、協力したりする楽しさを感じてきました。そして、年長さんになると、ちょっぴり難しいことにも自ら挑戦しようとする気持ちが育ち、子どもたち同士でその気持ちを応援したり、助言したり、手伝ったりして仲間と一緒に過ごすことの楽しさも感じています。そういう経験をくり返すことによって、力いっぱい遊ぶ時としっかり話を聞く時と、今どうしたらよいか状況判断ができる子どもへと育まれてきたのです。いつも園だよりなどでお伝えしておりますが、そういう力は教えられて育まれるものではなく、あそびを通して育まれるものと思っています。

発表会で跳び箱 5 段跳んでいた子も引き続き挑戦し、今では 7 段を跳んでいる子どももおり、それを見てやってみたいと思う子どもも増えました。また、年長さんの姿にあこがれ、年少、年中さんの中にも跳び箱 5 段に挑戦している子どももいます。

今、何をしなくてはいけないかという力をしっかり身につけ、小さな子どもたちのあこがれの存在となって小学校へと巣立っていく年長さんをとても頼もしく感じると同時に、子どもたちのやりたい気持ちをくみ取り、子どもたちの目に見えない力が育まれていくことを信じて見守っているすいこうの職員も、子どもたちに成長させてもらっていると嬉しく思っています。

これからもすいこうは、あそびの中でたくさんのごことを学んでいる子どもたちの成長を見逃がすことなく、保護者の皆さんに発信しながら、ともに成長し合い、育てを楽しんでいくことができればと願っています。



園長 上原玲子

アンケート結果より 2

土曜日は職員が少ないからと言われても困る。仕事は休めないこともある。園は働く保護者の一番の理解者であって欲しい。

土曜日は通常通り保育をしております。行事等でご協力を頂くこともありますが、お仕事の都合の付かない方は当然保育を致しますので、遠慮なく登園してください。誤解を招くような伝え方だったのかもしれませんが、一瞬にして信頼関係を崩すこともあります。私たちは、保護者の一番の理解者であるよう努めてまいります。

アトリエで遊んでいて、多学年と一緒に遊びたい場所が自分で選択できるようにしています。それぞれの場所には、必ず、保育者が付いて子どもの把握をしています。途中でアトリエから園庭に変わる場合は、保育者から保育者へ「〇〇ちゃんが、園庭に出ます。アトリエは、8人になりました」「じゃあ園庭は、12人になったね」などと言って、人数の把握をしています。園庭から保育室に入るとき、アトリエから園庭に出る時など、場所を移動する際は、必ず、人数の確認をしています。

ここに挙げたものは一例ですが、そのほか、さまざまなご意見・ご要望をいただきました。これらのことは、すいこうがこれから少しでも皆さんが安心でき、子どもたちが心豊かに成長していくための園となるよう、期待を込められたご意見であると真摯に受け止めております。工夫したけどできない事、また時間のかかることもあるかと思いますが、一つひとつできる限りの対応をしていきたいと思えます。

ここに挙げたものは一例ですが、そのほか、さまざまなご意見・ご要望をいただきました。これらのことは、すいこうがこれから少しでも皆さんが安心でき、子どもたちが心豊かに成長していくための園となるよう、期待を込められたご意見であると真摯に受け止めております。工夫したけどできない事、また時間のかかることもあるかと思いますが、一つひとつできる限りの対応をしていきたいと思えます。

詳細については、グラフなどにまとめて、後日お知らせいたします。



文責 上原玲子